作楽

第217号

令和元年9月10日号

社会福祉法人　一誠福祉会

〒441-8066　豊橋市王ケ崎町字上原1番地145
TEL(0532)48-5111・FAX(0532)48-5112



浴衣姿で打ち水をする麗楽荘・和光ハイムの皆さん

目　次

理事長再任挨拶
災禍転福　社会福祉法人 一誠福祉会 理事長　滝川 一亮 …… 2

新任挨拶
理事就任挨拶　特別養護老人ホーム麗楽荘 荘長　小島 寛晶 …… 3

後援会だより
夏の恒例イベントに参加して　老人保健施設ベルヴューハイツ 相談員副主任　鮎滝・龍潭寺巡り　一番ケ瀬 智佳子 …… 4

研修報告
労務管理「労働契約の基本とトラブル対応」を聴講して　特別養護老人ホーム麗楽荘 副荘長　鈴木 恒也 …… 5

リハビリ講座
脳卒中その⑦　老人保健施設ベルヴューハイツ 理学療法士主任　杉本 昌洋 …… 6

地域貢献活動
「こども110番」への登録による地域への貢献　地域包括支援センター作楽荘 社会福祉士副主任　大塚 早苗 …… 7

ふるさとの城郭
シリーズ㉔ 江戸時代に架けられていた「公儀橋」や渡河の方法について　特別養護老人ホーム麗楽荘 生活相談員主任　高橋 初典 …… 8～9

施設紹介
一人一人の思いを大切に……　グループホームうらら 介護士主任　高木 啓次 …… 10

施設だより …… 11～18
＊作楽荘　お口のケアに取り組んで　歯科衛生士　玉澤 真由美
納涼盆踊りを終えて　特養介護士　大林 藍
＊美光ハイム　入居より三年目の思い　入居者　青山 邦雄
＊倶楽荘　ユニットケアの入浴　介護士主任　竹本 俊幸
＊GHくらら　笑顔は宝物　介護士主任　湯浅 順一
＊斯楽荘　夏夜の思い出　介護士　浅川マルタ
＊ベルヴューハイツ　心機一転　看護師　松井 慶美
スイカ割り大会　デイ介護士　澤口いさみ
＊DSC吉かわ　令和の夏　介護士主任　滝川 一善
＊麗楽荘　気合の一振り　介護士　山口 真実
＊デイサービス麗楽荘　楽しくリハビリ　介護士　田中 育代
＊和光ハイム　浴衣姿で打ち水　主任　相山由里子
＊GHうらら　流しそうめん会　介護士　原 均
＊奇楽荘　うなぎを食す　介護士副主任　柳生 康紀
＊GHきらら　雲母（きらら）祭を終えて　介護士　野末 宏幸

施設日誌【行事案内】／編集後記 …… 18～20

理事長再任挨拶

災禍転福

社会福祉法人 一誠福祉会 理事長　滝川一亮

去る六月十五日の理事会で、理事長に再任して頂き、はや3ケ月が経ちました。「光陰矢の如し」。時間が経つのは本当に早いものです。

話は変わりますが、こんな事がありました。ある日、ランチで入った蕎麦屋でトイレに入った時の事です。壁に古ぼけたよれよれの何やら怪しげな紙が貼ってありました。さりげなく目をやると、「災禍転福極意書」と書いてあります。さらに読んでみると、発行元はどうやら「災禍転福　貧乏神神社」なる所で、『貴方は貧乏神神社を詣でた事によって貧乏神を追放できたが、貧乏神は「隙あらば、また貴方に取り憑こう」と虎視眈々と狙っている。だから決して「隙」を見せてはいけない。「隙」とは「心の弱さ」だけでなく「傲慢」・「慢心」なども隙をつかれる弱点となり、身を正した「正しい生活」に留意すれば貧乏神が付け入る隙の無い強い人間になりえよう』といった事が書いてあり、さらに、徳目として、

- 生かされていることを感謝し、思いやりの心を持つ
- 何事もくよくよせず、プラス思考で対処する
- 体に良い食べ物、適度の運動など、健康維持に努める
- 人の倍は無理でも、二割増しくらい努力する
- 願い事を毎日念ずれば、「必ず成就する」と信じる
- 今日一日を省みて、明日の活力に生かす

の実践を挙げてありました。

この紙をあちこちに貼って、毎日毎日、繰り返し読む。すると自ずと人格が向上する。貧乏神の付け入る隙が無くなる。代わって「福の神」が強い味方となる。結果、「人生好転する事」間違いなしと締め括られていました。「なかなか良い事が書いてある」と一人個室で妙に納得したのを憶えています。興味があったので調べてみたところ、長野県飯田市に在った施設で、どうやら正式な神社ではなく、現在は残念ながら閉鎖され更地になってしまっている様です。

霊感の全く無い私には貧乏神や福の神が本当に実在するのか知る術はありません。また、紙が貼ってあった蕎麦屋の亭主が真の幸せを掴む事ができたのかも定かではありません。しかし、常に生かされている事への感謝の気持ちを忘れず、ポジティブシンキングで日々努力する事はとても大切な事だと常々思っています。令和元年の今年度は初心に立ち返り、当法人の経営理念である「ノーマライゼーション」を合言葉に、利用者の方々に、より安心・快適な生活を送って頂ける様、取り組んでまいります。今年度も変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

新任挨拶

理事就任挨拶

特別養護老人ホーム麗楽荘 荘長　小島寛晶

日頃より当法人の運営に対しまして、各施設のご利用者をはじめ、ご家族・地域等の皆様方からご支援とご尽力を賜り衷心より感謝申し上げます。

去る令和元年6月19日に開催されました定時評議員会におきまして、この度若輩ながら理事に就任いたしました。施設長を拝命したときもその重責に身震いを憶えましたが、現在も麗楽荘グループの舵取りに日々奮闘中ですが、更に身の引き締まる思いが致します。

さて、当法人は昭和62年に法人認可を受けてから30年余の歴史を刻み続け、数々の課題と向き合ってきました。近年では社会福祉法人の制度改革により、法人経営は大きく様変わりし、喫緊の課題に日々奔走しています。その中で特に「人材の育成と確保」は深刻な問題で当法人を始め数多くの法人が頭を抱えています。

厚生労働省は従前より福祉人材の育成・確保のための総合的な施策を推進しており、量的な確保のみならず質的な向上に重点を置いた対策として、「社会福祉従事者の養成確保、資質の向上」を講じてきました。この背景には、少子高齢化の急加速により、労働人口も減少が見込まれる一方で、景気回復に伴う他業種の採用選択幅も増加し、我が福祉分野においては常態的に求人募集が行われるも離職率は上回っていることから見出されたものです。そこで、福祉・介護ニーズに的確に対応できる人材を安定的に確保していく観点から、関係団体並びに国や地方公共団体が講ずべき措置について改めて整理をした指針が見直された後に、「労働環境の整備の推進」「キャリアアップの仕組みの構築」や「潜在的な有資格者等の参入促進」などを盛り込まれた対策が講じられています。

しかしながら、これらの施行もさることながら、現実は非常に厳しい実情です。需要がピークと言われる2025年には、さらに現在の1.5倍の介護職員が必要という試算も示されています。だからこそ「人」無くして施設運営・経営は成り立たないと常々思っています。人は城、人は石垣、人は堀…こんな厳しい環境だからこそこの言葉を肝に銘じるべきではないでしょうか。最後になりますが、伝統ある法人のために、現状に満足せず、常に変化に対応できる経営感覚を生涯かけて自己研鑽し、微力ではございますが少しでもお役に立てるよう努力して参りますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

後援会だより

夏の恒例イベントに参加して

鮎滝・龍潭寺巡り

老人保健施設ベルヴューハイツ相談員副主任　一番ケ瀬　智佳子

日頃より法人の為に、後援会豊橋・新城の皆様にはご尽力頂き、心から感謝申し上げます。

夏の日盛りに木陰が恋しく感じる7月31日、令和元年度後援会豊橋・新城合同イベントが行われました。後援会の理事の方々とケアハウス和光ハイム入居者のお年寄り10名と職員で鮎滝と龍潭寺を巡りました。

先ずは、新城市出沢に位置する夏の風物詩「鮎滝」を見学しました。「鮎滝」の名勝は、この滝の滝」の名勝は、この滝の瀑布を二間余跳躍し遡上する鮎を、二間の竹竿の先に付けた笠網を両手で把持し、滝壺の巌頭に待ちうけて、鮎が空中に飛躍する一瞬にすくい獲る漁法です。



激流を遡上する生態に驚嘆

鮎滝は、その長きに渉る歴史的由緒と旧来の慣行に鑑み、鮎の漁獲は出沢区民の権利とされており、一般の方の漁は出来ないとの事です。夏の涼を感じる貴重なひと時を体験させて頂くことが出来ました。

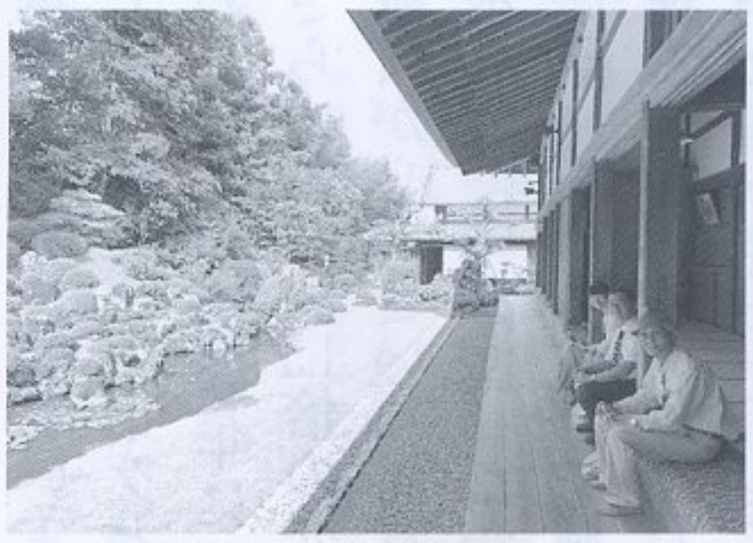


こんなに飛び跳ねる日も

午後からは遠州の古刹、井伊直虎ゆかりのお寺で井伊家の菩提寺として知られています龍潭寺へ赴きました。本堂・開山堂・御霊堂などの6棟は県指定文化財にも認定され、江戸の風情が感じられました。旧鐘楼堂を通り本堂へ、そして裏側へと回ると小堀遠州作の貴重な寺院庭園が目の前に。井伊家のお殿様が庭園をどう感じられていたのか思いを馳せ、しばし拝見。

出口付近には昔、文字の読めない方の為に絵で作られた絵心経と呼ばれるかわいらしいお経もお土産としてありました。歴史と威厳を感じながらゆったりと見学させて頂き、心穏やかな時間を満喫することが出来ました。

日々の生活から離れて、理事の方々や和光ハイムのお年寄りの方と交流を深める事が出来、さらに、季節や歴史を五感で感じることも出来、大変贅沢な一日を共有することが出来ました。



庭園の美しさに時を忘れ

研修報告

労務管理「労働契約の基本とトラブル対応」を聴講して

特別養護老人ホーム麗楽荘 副荘長　鈴木恒也

7月12日、一般社団法人日本経営協会主催による労務に関する研修会へ参加させて頂きました。

研修は大阪の中心部にある大阪科学技術センターで行なわれました。この様な類の研修にはあまり参加したことが無かったので、以前から常々勉強してみたいという思いがあり、とても有意義な研修となりました。

内容については、「鳩谷・別城・山浦法律事務所」の山浦美紀弁護士が、労働契約をめぐる中でのトラブルが多いことから、労働契約の成立や労働条件変更、人事異動、懲戒・解雇といった問題場面において、基本的な法知識を踏まえたうえでの実務上の対応策を、以下の6項目（①労働契約とは②労働契約と就業規則の関係③人事異動の留意点④懲戒について⑤解雇と労働契約の終了について⑥有期労働者の契約について）に分け、その一つひとつを分かりやすく丁寧に講義してくださいました。

その中で印象深かった講義内容を抜粋すると、昨今、次々と施行され始めた「働き方に関する法律」の講義でした。例を挙げると、年次有給休暇の取得義務化、同一労働同一賃金、長時間労働規制の強化があります。

日々変わる法改正に敏感に反応していかなければならず、同時にその法改正に則った就業規則等の改訂を実施していかなければ企業側と労働者側でのトラブルが増発しかねないとの事でした。特に近年労働者側の権利意識が高くなっており、トラブルから訴訟へと発展するケースが顕在化してきているとの説明がなされ、そのトラブルの回避方法として就業規則のブラッシュアップはもとより、企業側が常に準備を怠らず、職員に対して誠意をもって対応していくことが重要であるとの事でした。

まとめとして、企業側のリスクマネージメントが非常に大切である事と同時に、労働者側ともこまめにコミュニケーションをとり、意思の疎通を図っていくことが重要であると強く感じました。

今回のこの研修を通して知らない事が多く、自身の知識不足を痛感しました。さらに勉強し、獲得した知識を今後の労務管理に積極的に活かしていきたいと考えました。



全国から集まる受講生

リハビリ講座

脳卒中 その⑦

老人保健施設ベルヴューハイツ 理学療法士主任 杉本昌洋

先日、飛行機に乗る機会がありました。今回は頭痛が起きないように準備して臨みましたので、その結果について報告します。

始めに飛行機頭痛について少しおさらいをします。この頭痛は鼻づまりや鼻の通りが悪い時に、気圧の変化があると三叉神経が刺激されて激しい頭痛が起こるものです。主に飛行機が着陸のために下降する際の気圧の変化により起こります。沿海部の空港への着陸の時に発症しやすく、着陸後、30分以内に痛みは消えるとされています。ただし、すべての人に起こるわけではありません。

以前、私はこの頭痛を経験したため、それ以来飛行機に乗るのをためらっていました。しかし脳の血管のトラブルで起こるのではないことが分かり、またその対処法があることを知り、それを頼りに飛行機で旅行することにしました。

その日は快晴で鼻の通りも良く、搭乗することに不安を感じることはありませんでした。今回、頼りにしたのは、点鼻薬です。ほかの選択肢として頭痛薬の服用や気圧調整機能付きの耳栓の使用などがありましたが、頭痛薬は胃があれることが多くそのために胃薬を飲むのがイヤ、というわがままな理由で却下。耳栓は飛行機に乗る時以外に使用することがなく、そしてアマゾンで買うと送料を負担しなければならないためこれも却下。しかし点鼻薬は即効性があり、日常の鼻づまりにも使えます。そもそも鼻の通りが悪いために起こるのならばこれしかないとの理由で、点鼻薬で決まりです。

離陸後、機体は多少の揺れはありましたが水平飛行に移る頃には快適な状態になりました。着陸予定時間の30分程前に点鼻薬を使用しました。いささか緊張しながら外の景色を眺めていると降下が始まりました。雲の上を飛行していた機体が徐々に雲の中へと入りそして海が見え、さらに降下していきました。結果、前回のような頭痛は起きませんでした。ただ、途中で何となく右眼の下あたりにうずうずとした感じと着陸後にわずかな頭重感がありました。しかしそれは以前の経験がなければ気に留めることはなかったと思います。

これできっと帰りも大丈夫だと思いました。しかし、帰りの機内で辛い思いをすることになります。次回に続きます。

地域貢献活動

「こども110番」への登録による地域への貢献

地域包括支援センター作楽荘 社会福祉士副主任　大塚早苗

こども110ばん

平成28年改正社会福祉法において、社会福祉法人の公益性・非営利性を踏まえ、法人の本旨から導かれる本来の役割を明確化するため、「地域における公益的な取組」の実施に関する責務規定が創設されました。

当法人も「ノーマライゼーション」の理念のもと、地域の実情に応じた多様な取組を行って参りました。私の勤務する地域包括支援センター作楽荘でも、地域包括ケアシステムの構築を通じて、地域に貢献をしているつもりですが、独自性に欠けるため、今年度の事業計画の目標として、地域貢献活動の推進と題し、「こども110番」への登録による地域の防犯への貢献を掲げました。

平成6年4月、岐阜県羽島市において小学校2年生の児童が下校中に殺害されるという痛ましい事件が発生しました。この事件を教訓として、平成8年3月、可児市今渡北小学校ＰＴＡが中心となり、警察・地域防犯協会等と連携し、通学路周辺の理容院・美容院・コンビニ・ガソリンスタンド等が、つきまといや声掛けの不安を抱かせる事案に対して、緊急避難先としてこどもを保護するとともに、警察への連絡の措置を講じることにより、事件の未然防止を目的に、「こども110番の家」として、こどもに分かりやすいステッカーを掲示したのがこの「こども110番」の始まりです。

役割として、こどもが助けを求めて駆け込んできたときの保護、警察への緊急通報、保護者への連絡です。また、「トイレ貸して」「雨が止むまで待たせて」等の理由で訪れる時もあるそうです。その時も思いやりをもって対応しようと思います。

せっかく登録しても、それらの活動内容を地域の皆さんが知って気軽に利用できるようにしなければ本当の意味で公益性を持った活動とはいえません。日頃から、気軽に訪れることができるよう、幼稚園、小・中学校との交流、ボランティアの受け入れ、盆踊りや文化祭等の行事を通して施設を地域に開放していくことが必要です。

現在豊橋市では約１５００の個人や企業等が登録しているそうです。少しでも地域の防犯に役立てれば幸いです。



「こども110番」の旗を掲げ

ふるさとの城郭

シリーズ㉔―江戸時代に架けられていた「公儀橋（こうぎばし）」や渡河の方法について

特別養護老人ホーム麗楽荘 生活相談員主任　高橋初典

今回は、江戸時代の河川に架けられていた橋や渡河の方法について紹介したいと思います。

江戸時代の橋は、幕府の経費で架橋・架け替え・修繕などが行われた「公儀橋」と各藩や町人が経費を負担して架けた「町橋」に分けられました。また、江戸内の公儀橋は「御入用橋」と称して区別されていました。御入用橋では、日本橋・両国橋・浅草橋・呉服橋などが有名です。

江戸時代の大きな河川には橋が架かっていない事が殆どで、将軍の居住する江戸を守る意味合いもありました。しかし、架橋のための技術や予算の問題の方が大きかったでしょう。まず、水深の深い河川では橋脚を立てるのが難しいですし、急流の河川に架橋するのも流失の危険も大きく莫大な維持費も掛かります。

そのような理由で「川越人足」や「渡し舟」といった渡河に関わる仕事が必然的に生まれてきたのです。東海道の大井川などは、普段は水深が浅く流れも緩やかなので、川越人足が旅人を背負ったり、輿に載せたりして渡河をしました。大雨の時などは、渡河出来ずに何日か川留めに遭う場合もありました。大井川は、幕府の役人が出張して管理しており、関所の役割も果たしていたようです。

北陸道の神通川では、川幅が広く水深もあるので、舟を並べて、鎖で「繋ぎ板」を施した「舟橋」が架けられていました。有事の際には舟橋を撤去して、防御する機能があったようです。

東海道の岡崎・矢作川に架かっていた「矢作橋」は、公儀橋ではありませんが、江戸時代には日本最長の大橋でした。何度も大水に流され、改修を繰り返してきました。

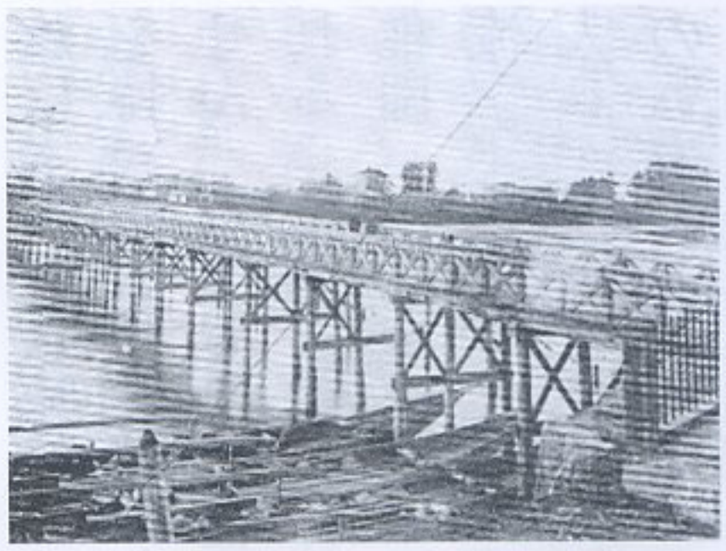
日吉丸（幼い頃の豊臣秀吉）が矢作橋で寝ていたところを野武士の一団が通りかかり、日吉丸の頭を蹴りました。怒った日吉丸が「詫びていけ」と睨みつけたが、野武士の頭領の蜂須賀小六が、その度胸を買って手下に



神通川に架かる江戸時代後期の舟橋



川越人足の輿により大井川を渡河する古写真



明治時代初期の矢作橋・古写真

加えたとの逸話が残っています。しかし、矢作川に橋が架けられたのは江戸時代に入ってからなので、この話は作り話だという事が分かります。

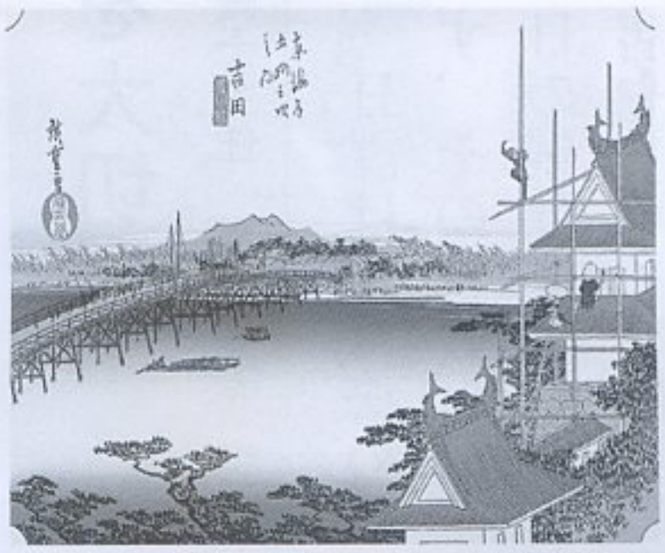
公儀橋で特に有名なのは、滋賀県の瀬田川に架かる「瀬田の唐橋」です。東海道と中山道方面から京都へ入るには、琵琶湖を渡るか南北いずれかに迂回しない限り、琵琶湖から流れ出る瀬田川を渡河する必要がありました。

瀬田の唐橋の歴史は古く、七世紀には架けられていたと記録に残っています。唐橋を本格的に整備したのは、織田信長です。天正三年（１５７５年）に、長さ三百ｍ以上で両側に欄干を備えた立派な橋を完成させました。江戸時代には、東海道が唐橋を通りましたが、幕府は瀬田川に唐橋以外の橋を架ける事を禁じて京の都を厳重に守りました。



明治時代初期の瀬田の唐橋・古写真

最後は、豊川に架かる「吉田大橋」です。初めて架橋されたのは、鎌倉時代の貞応三年（１２２４年）で「今橋」と呼ばれていました。



修理中の吉田城内から描いた歌川広重の吉田大橋

戦国末期に徳川家康が三河を統一すると、徳川四天王の一人・酒井忠次が吉田城主となります。忠次は、豊川の関谷口から下地村へ、吉田大橋を架橋します。その後、家康が関東へ移封されて池田輝政が入封すると、整備した下流の船町から下地村へ橋を架け替えます。

江戸時代に入ると幕府直轄の公儀橋として管理され、東海道を代表する大橋として全国に知られました。豊川は水量の多い河川だったので、橋の維持・管理には相当の負担があったといいます。

そして明治新政府が吉田大橋を架け替えた際に「豊橋」と名称を変更しました。それに伴い、三河国・吉田は、豊橋と名乗るように新政府から命が下されます。宇和島藩の支藩である伊予・吉田藩と名前が一緒で紛らわしいとの理由です。しかし、宇和島藩・伊達家が新政府要人に近かったのが本当の所でしょう。当時の人は、遥かに小さく田舎の伊予・吉田が「吉田町」を名乗る事が納得いかなかったと思います。

昭和に入り、国道一号線を整備した際に、現在の位置へ再び吉田大橋が架けられます。これにより、「豊橋」と「吉田大橋」の二つの橋が豊川に並び立ち現在に至ります。

ちなみに「三河国」の地名は、「豊川・矢作川・巴川」の三川が流れている事に由来すると云われます。また「境川」を境に、尾張と国名が変わります。昔から「河川」の存在は大きいのですね！

施設紹介

一人一人の思いを大切に

グループホームうらら介護士主任　高木啓次

当施設は平成17年4月に開設し、一誠福祉会の中でグループホーム（認知症対応型共同生活介護）の先駆けとなったサテライト施設です。

当ホームでは、日々笑いがあり、心地よく、安心して生活をして頂く事ができる「笑・快・安」を理念として日々笑顔を絶やすことなく入居者の方々と接するよう心がけております。そして、家庭のように暖かな雰囲気の中、一人一人の『思い』を大切にその人らしく穏やかに過ごせる様、スタッフ一同お手伝いをさせていただいております。

日課は特に決めておらず、その日の天候やその日の気分に合わせて喫茶店やドライブ散歩に出かけたりしています。新城市にある道の駅「もっくる新城」も車で15分程で行ける場所にあり、日々地元食材の買物や足湯等に出かけ皆さん楽しまれております。



足湯気持ちいいね！

また、数年前には長篠設楽原パーキングエリアができたことで、皆さんの大好物であるソフトクリームや団子を召し上がりに、そちら方面にも足を運ぶ機会が増えました。



新城の町並みと一緒に

毎日の食事は入居者の希望を取り入れた献立をスタッフが考え、近所のスーパーへ入居者とスタッフが一緒に買物に出かけ、昼と夜の一日2食を協力して調理しています。

グループホームは食事の支度や掃除・洗濯など日常生活を入居者と共に行う施設だと思っています。自分の家とは違うかも知れませんが、馴染みのスタッフと馴染みの入居者同士が家にいるような雰囲気の中でくつろぎながら助け合って生活をして行く、そういった環境が認知症の改善・維持にも繋がります。

末永くホームで自分らしく生活していただけるよう共に歩んで行きます。



入居者同士仲良く昼寝

施設だより

作楽荘

○お口のケアに取り組んで

歯科衛生士　玉澤　真由美

作楽荘に入居されている皆様のお口のケアのお手伝いをさせていただいて、早いもので三年になります。ここ数年マスコミなどで「誤嚥性肺炎」について取り上げられるようになり、入居されている方のご家族や職員の方々のお口に対する意識が、以前に比べて高まったことを実感するとともに、歯科衛生士として何ができるかを自問自答する毎日です。

日々の取り組みの一つとして、歌をうたってもらうことがあります。これによってお口の周りの筋肉や舌の運動のトレーニングになります。加えて、なかなかお口を開けて下さらない方も、お願いするとご自分の十八番を口ずさみ、とても良いお顔になられます。

このような小さな積み重ねが入居者様の〝健口維持〟につながりますようにと願い、これからも日々プロ意識を胸に秘め、お口のケアに取り組んでいきたいと思っています。


お口のケアは大切です

○納涼盆踊りを終えて

特養介護士　大林　藍

特別養護老人ホーム作楽荘では八月三日、納涼盆踊りが行われました。

今年も、施設利用者の方だけでなく、近隣にお住まいの方、ボランティアの方、そして他施設の利用者の方など沢山の方が来てくださり、例年以上に盛り上がりました。

踊りはもちろんのこと、模擬店や特にビンゴ大会も大変盛り上がり、ビンゴに当たった入居者の方が一生懸命景品を選ぶ姿や、職員とともに一喜一憂する姿は日頃の業務と、違った景色で感動を覚えました。

さて、この行事を開催するに当たり、例年とは少し異なった部分がありました。それは、今年は私が行事委員長という立場での参加であったことです。昨年、行事副委員長として迎えた納涼祭とは気持ちと責任は雲泥の差で、不安の中準備を進めていきました。


地域住民も訪れ盛況

今回の貴重な体験を深く胸に刻み、日々の業務に活かせる様、これからも努めて行きたいと思います。

美光ハイム

○入居より三年目の思い

入居者　青山 邦雄

平成二十九年七月十五日美光ハイムへ入居して早くも三年目を迎えます。

入居時、先輩の年齢を聞きビックリ仰天。八十代・九十代の方々が多く入居している現況に、今まさに話題の『人生百年』です。これだけ年齢に差があるため当初は対応に苦慮しました。なおかつ、認知症・知的障害・精神疾患の方等、集団生活に馴染めない方もいらっしゃいます。この様な方々とともに生活していくには?本人とその親族関係者、施設職員、そして、我々入居者が密接に連携し、慈愛の心で繋がることが大切です。

マスコミを賑わしている『殺人事件』の根本には『ひきこもり』を経験している容疑者が多いようです。幼学期にいじめられて、家族との会話も少なく家で『ひきこもり』が始まり、自分の納得がいかなければ家族に暴力を振るって自己存在をアピールする。淋しい人でありますす。切迫した社会問題ですが、考え方は一緒で、地域との繋がりが鍵ではないかと思います。

さて、令和の新時代がスタートしました。私は新時代のスローガンとして、『前へ』と決めました。そして、来年一月は自動車運転免許証更新月です。これを機会に免許証を返納する事としました。

倶楽荘

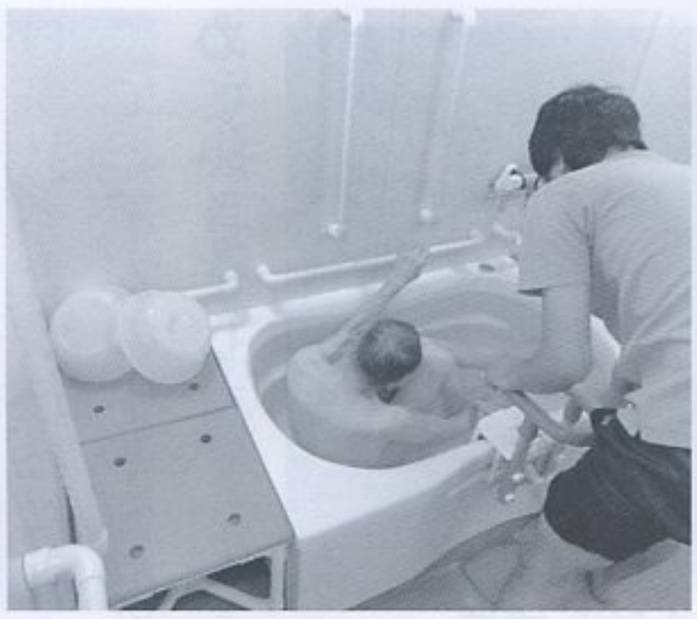
○ユニットケアの入浴

介護士主任　竹本 俊幸

ユニットケアでの入浴はマンツーマンで、一人ずつゆっくりと入っていただくのが基本となります。また、湯加減や入浴時間、体の洗い方から入浴剤の有無などご本人の意向を十分に聞いたうえで介助を行います。

当施設では機械浴も設置されていますが、殆どの方はユニットの個浴で入浴されています。個浴の浴室にはリフトが付いておらず、浴槽周りの手摺りで対応しています。体の大きい方や一人で立てない方も多くみえるので、介助の際は一筋縄ではいかないのが現状です。

広々とした機械浴に比べ、こじんまりした個浴の雰囲気は自宅のお風呂により近く、「ごく普通の生活」を目指すユニットケア理念には欠かせないもので、入居者が心身ともにリラックスできる空間であります。


個浴での入浴風景

さて、職員は入居者の安全を第一に、相手の状況に合わせ介護技術を駆使し、頑張って日々汗を流しています。無理をさせずに腰痛対策等、気遣って行きたいです。

GHくらら

○笑顔は宝物

介護士主任　湯浅 順一

グループホームくららでは、二か月に一回、運営推進会議を開催し、施設や地域で行われる行事について情報を交換し合っています。

今回は7月28日に津田小学校で開催された地元の津田祭りに参加させて頂きました。小学校の運動場内には盆踊りの櫓や模擬店がありました。とても広い運動場だったため、入居者の方が移動等で疲れてしまうのではないかと初めは心配しましたが、盆踊りに参加したり、食べたい物を自分で選んで食べたりと、心配をよそにとても楽しまれていました。模擬店で行われた輪投げのゲームでは輪を投げる度に、「あー」と歓喜なのか悔しいのか大きな声をあげ、飛びっきりの笑顔でした。景品で貰った光ネックレスをずっと首にかけて回り、帰荘後も大切にしまって宝物にしています。

私達にとっても、入居者の方の素敵な笑顔を見ることが出来、忘れられない宝の思い出となりました。



お気に入りのネックレス

斯楽荘

○夏夜の思い出

介護士　浅川 マルタ

少し前まで異常気象と言われたこの暑さが、もはや通常であるかのような令和元年の八月。

毎年恒例の玉川小学校で開催される地元の盆踊りに参加しました。やぐらのまわりには老若男女が音頭に合わせて楽しく踊り、そのまわりには父兄たちやボランティアの子供たちによる出店が開かれていました。かき氷・フランクフルト・綿菓子、どれも入居者にとっては懐かしいものばかりです。

「○○さんも踊りますか」と尋ねると、「恥ずかしいからここで大丈夫」と少し照れた様子ではありましたが自然と手は音頭にあわせて頭上にあり、トントンと手拍子が繰り返されていました。

私の故郷ブラジルにも有名なカーニバルがあります。皆さんがそれを懐かしむように、私もついつい楽しかった思い出が巡り、自然と語っていました。

提灯の灯りの下で満足そうな皆さんの顔を確認した後、涼しい快適な施設へと帰りました。


昔を思い出すね

ベルヴューハイツ

○心機一転

看護師　松井 慶美

今年度に入り、ベルヴューハイツは施設長をはじめ看護スタッフの顔触れが変わりました。

施設長につきましては、5月より滝川一成理事が、新施設長兼医師として5年ぶりに再就任となりました。また、永年、老健の看護部門の中心としてまとめられてきた0主任をはじめ永年勤続者の3名が退職され、その後、施設内の他部署から異動で1名、夜勤専属勤務の職員が1名、8月には1名の入職が有り、看護部門としては業務に支障なく入所者への対応が出来るようになりました。


相手のペースに合わせ

老健は、在宅復帰を目指す施設です。服薬管理・口腔ケアはもちろん、PT・OTとの連携によるリハビリの充実、ADL（日常生活動作）の獲得など、常に在宅での生活を意識した看護の視点で、入所者のケアを行わなければなりません。

新たなメンバーと共に、老健としての役割を再確認し、より良い看護を提供できるよう心機一転、チームワークを大切に頑張ります。

○スイカ割り大会

デイ介護士　澤口 いさみ

7月25・26日の2日間にわたり、「スイカ割り大会」を開催しました。

やる気いっぱいのご利用者さんは棒を握りしめ、そして目にはアイマスクを装着し、準備万端。

あちらこちらから、「右だ！左だ！」と歓声と指示の声が上がり、右往左往さ迷い歩いた末、ようやくたどり着いたスイカの前。大きく棒を振りかざすと、「エイ！」とここぞとばかりの一撃！パックリと割れたスイカはその後、本物と入れ替え、包丁で綺麗に切り分け、皆さんに振る舞いました。甘くて美味しいと好評でした。


見事！真っ二つ


私達は食べるのが専門

夏らしい企画を行い、皆さん暑さも少し忘れてくれたようです。水分をしっかり摂ってこの夏を乗り切りましょう。

DSC吉かわ

○令和の夏

介護士主任　滝川　一善

春には宇連ダムが枯渇する様がニュースになっていましたが、入梅からこっち、水不足のニュースは影を潜めました。七月には100％の貯水率を達成しています。そうなると、例年実施し、今年も計画していた『流し素麺』を実行するのに支障はなし。より多くのご利用者に楽しんでもらうよう、昨年までの一回を二回実施することにしました。また、吉かわでは麺の他にも丸いものや四角いものが流れ、それが毎度毎度大好評であります。

夏真っ盛りの八月には『夏祭り』を一週間行いダーツゲームや金魚すくい、盆踊り等を楽しみました。普段のレクリエーションとは異なる「お祭り」要素を感じていただけたのではないでしょうか。そして何と言っても一番の楽しみはおやつ。職員により、かき氷やみたらし団子、心太を日替わりでご提供。

そういえば暑い盛りには癒しの珍客も訪れてくれました。



赤毛カニも来所

麗楽荘

○気合の一振り

介護士　山口　真実

夏の日差しが強く降り注ぐ平日の午後に、レクリエーションとして入所者の皆さんと室内でスイカ割りを行ないました。スイカ割りを行なう前に季節に因んだ歌を唄い気分を盛り上げました。気分も高揚し、いよいよ皆さんお待ちかねのスイカ割りが大歓声と共にスタートしました。今年は目隠しに拘って猫のアイマスク。その可愛らしさとそのギャップに皆さんまずはひと笑い、そしてスイカとの真剣勝負へ。張り切って棒を振り上げると、「まっと右、ああ行き過ぎた！」「いいぞ、そこだ！頑張れ」と応援する皆さんも手に汗握る白熱振り。空振りするのもご愛嬌、皆さんの願いと、気合が籠った一振りでスイカは見事に割れました。



なかなか上手く割れないな

最後は職員が包丁で食べやすくカットし、今年初のスイカに舌鼓を打ちました。「甘いね」「美味しいね」と満面の笑みでスイカを頬張る素敵なサマータイムとなりました。

今夏も元気で過ごしましょう！

デイサービス麗楽荘

○楽しくリハビリ

介護士 田中 育代

後援会新城よりリハビリ機器を寄付して頂き、個別のリハビリバリエーションが増えました。

新しく入ったリハビリ機器の使用方法は、椅子に座っていただき自転車の様に足でペダルを漕ぎ下肢を鍛えます。器具名は「エスカルゴ」。名前の由来は器具の形がかたつむりに似ていることからそのような名前がついたとの事でした。

利用される方は、1回約10～15分がワンセットとなり、皆さんからは「これをやると足が軽くなるよ」「漕ぐと気分がすっきりするよ」などと評価は上々、順番が空くのを心待ちにされている方も見え、とても人気があります。

7月からは新たに3台のリハビリ機器が増え、更なるリハビリの充実を目指し、職員も頑張ってサポートしております。


足腰が衰えないように

皆さんに楽しんでリハビリを続けていただくきっかけになればと思っています。マイペースで少しずつ前に進んで行きましょう。

和光ハイム

○浴衣姿で打ち水

主任 相山 由里子

「東京オリンピック開催1年前の7月24日、全国一斉に打ち水をして気温を1℃下げる〝浴衣姿で納涼打ち水大作戦〟を和光ハイムの玄関前でやりませんか?」と全国和装学院の伊東様よりお話をいただきました。参加者を募っている7月中旬頃は、例年より気温が低く日照り不足が続き、納涼?打ち水?と疑問視されることもありましたが、打ち水の前日23日から真夏の日差しとなり、気温も上昇。打ち水が待ち遠しい暑さになりました。

当日は装賀きもの学院による着付け教室も開催され、和装と打ち水で涼をとる日本人の文化の素晴らしさを教えていただきました。当施設だけではなく、特養麗楽荘、GHうらら、老健サマリヤの丘の方々、つばさ保育園の園児が浴衣で打ち水をするために来て下さり、他事業所や地域の園児との交流が出来ました。

不思議なことに水を撒いた瞬間に風が吹き、会場一帯が涼しい空気に包まれ、清々しい気持ちになれました。


日本全国「涼しくなれ!」

GHうらら

○流しそうめん会

介護士　原　均

季節を感じて頂こうと毎年恒例、当事業所の夏の風物詩である流しそうめん会を今年も盛大に行いました。入居者の皆さんは、前日からとても楽しみにしており、「明日の天気は大丈夫?」「竹の準備はちゃんと出来てる?」など前日から落着かない様子でした。



さあ流れてくるよ

迎えた当日、皆さんの期待とは裏腹にあいにくの雨天となり、職員総動員で急遽室内での流しそうめんを敢行すべく準備に大忙し。準備が出来るとすぐに皆さん竹の前に勢ぞろいされ、箸を構えてやる気十分といった様子でした。

そして、いよいよそうめんを流すと我先にと箸で上手にそうめんをすくい取り、次から次へと口に運んで皆さん笑顔で楽しんでおられました。いつもと違う食事に普段はあまり食べない方も食が進み、満腹でご満悦の様子でした。

これからも皆さんと一緒に季節感溢れる食事を味わえたらいいなと思いました。

奇楽荘

○うなぎを食す

介護士副主任　柳生 康紀

土用の丑の日がやってまいりました。当施設では今年もうな丼を入居者さんへ提供しました。

ある方がテレビを観ている時に言われた、「うなぎ食べたいね」との何気ない一言から提供が始まり、早3年目を迎えることとなりました。

近くの店で、うなぎの蒲焼きを購入し、入居者さんの目の前で盛り付け。いつもより熱い視線を感じつつ、「そっちの方が大きいよ」「尻尾は嫌」などの注文が矢継ぎ早に、職員もその対応に大わらわです。やっと食事の準備ができ、「美味しいね」と皆さんとても喜んで頂き、頑張って準備した甲斐がありました。

「お腹がいっぱい。残していい?」と話しかけてきた入居者さんの丼を見ると、うなぎだけは綺麗に無くなっており、お腹がいっぱいになる前にうなぎだけはちゃっかりと食べ切ってしまう入居者さん、お見事です。

食はパワーの源。また、皆で美味しい物を食べましょう。



うなぎを食べて元気モリモリ

GHきらら

○雲母（きらら）祭を終えて

介護士　野末 宏幸

7月13日に恒例の雲母祭を行いました。今回のテーマは「昭和の夏祭り」。多くの屋台料理の出店にコイン落としやヨーヨー釣りなど昔からのゲームを楽しんで頂きました。小雨が降っていましたが、ボランティアの皆さんによる活気ある屋台運営と、踊りや演奏などのアトラクションで、沈滞ムードが賑やかな雰囲気となりました。

私にとって異動後初めての雲母祭はとにかく大変でした。来場者へ食事を届けたり、屋台交代要員となったりと様々な対応に追われ、気が付くと夕闇が迫っていました。皆で協力し花火見物の椅子を並べ終わった頃には足腰にきていました。自分の動きを見直す余裕も無かったのですが、事故なく終わって良かったという安堵の気持ちが残った一日でした。

最後は入居者さんと一緒に花火を楽しむ事ができました。生憎の天気ではありましたが、皆様のご協力でとても良い雲母祭となりました。



上手く出来るかな？

本部日誌

令和元年7月

9日　荘内研修茶々倶楽部（於 麗楽荘）
16日　荘内研修茶々倶楽部（於 作楽荘）
17日　本部会議（於 斯楽荘）
19日　キャリアパス研修（於 作楽荘）
22日　採用選考面接（於 麗楽荘）
31日　後援会豊橋・新城合同後援会及び懇親会（於 湯谷泉山閣）

令和元年8月

9日　制服委員会（於 斯楽荘）
21日　本部会議（於 斯楽荘）
24日　採用選考面接（於 作楽荘）
27日　採用選考面接（於 麗楽荘）
施設内研修茶々倶楽部（於 BVH）

作楽荘日誌

令和元年7月

1日　音楽慰問（歌の輪会）
2日　ガラス絵クラブ（講師 朽名先生）
3日　接遇マナー研修（櫛木 於 アイリスあいち）
5日　中野地区民生委員定例会（包括 於 中野地区市民館）
6日　福岡地区民生委員定例会（包括 於 福岡地区市民館）
7日　七夕会
8日　入所者健診（於 TSK）
給食会議
シニアのための食とお口の健康講座（包括 於 ほいっぷ）
10日　買物外出
12日　寿司祭り
介護支援専門員研修交流会（居宅・包括 於 ほいっぷ）
15日　事故防止委員会施設内研修
16日　生花クラブ（講師 林先生）
音楽慰問（日本の歌愛唱会）
17日　職種別会議（主任ケアマネ）（渡邊 於 大清水センター）
ピアノ演奏会（杢野先生）
18日　買物外出
手芸クラブ（講師 味岡先生）
本部会議（於 斯楽荘）
ガラス絵クラブ（講師 朽名先生）
地域ケア会議（中野地区 包括 於 南陽地区市民館）
鉄山カフェへの健康講座（包括 於 南陽地区市民館）
19日　絵手紙教室（講師 神藤先生）
20日　小池町老人クラブ百寿会への健康講座（包括 於 小池町集会所）
21日　誕生日会
22日　宝陵高等学校実習（～8月2日）
23日　職種別会議（社会福祉士）（白井主任・大塚副主任 於 豊橋市役所）
24日　買物外出
福祉施設ボランティア受入担当者連絡会（於 あいトピア）
25日　音楽慰問（おたまじゃくしの会）
連絡会議
ディズニー流接遇研修（藤井 於 日本福祉大学名古屋キャンパス）

令和元年8月

2日　作楽荘・美光ハイム合同防災訓練
3日　納涼盆踊り
5日　音楽慰問（歌の輪会）
6日　生花クラブ（講師 林先生）
7日　ガラス絵クラブ（講師 朽名先生）
盆供養
音楽慰問（おたまじゃくしの会）
9日　中野地区民生委員定例会（包括 於 中野地区市民館）
包括・運営協議会（白井 於 豊橋市役所）
身体拘束廃止委員会施設内研修
福岡地区民生委員定例会（包括 於 福岡地区市民館）
12日　給食会議
13日　迎え火
15日　送り火
寿司祭り
16日　絵手紙教室（講師 神藤先生）
18日　誕生日会
19日　中部福祉医療保育専門学校介護実習（～8月30日）
20日　絵手紙教室（講師 神藤先生）
南小池町老人クラブへの認知症サポーター講座（包括 於 南小池町集会所）
27日　職種別会議（主任ケアマネ）（渡邊 於 大清水センター）
21日　本部会議（於 斯楽荘）
手芸クラブ（講師 味岡先生）
音楽慰問（あさがおの会）
職種別会議（社会福祉士）（白井主任・大塚副主任 於 豊橋市役所）
28日　ピアノ演奏会（杢野先生）

美光ハイム日誌

令和元年7月

6日　七夕会
9日　カラオケクラブ（講師 白川先生）
10日　書道クラブ（講師 岩田先生）
　愛知県老施協第2回施設長会議（青山ハウス長 於 ウインクあいち）
11日　茶道クラブ（講師 西口先生）
16日　健康体操クラブ（講師 大須賀先生）
18日　華道クラブ（講師 田中先生）
20日　豊橋祇園花火大会
23日　カラオケクラブ（講師 白川先生）
27日　音楽鑑賞会
30日　お達者倶楽部

令和元年8月

1日　華道クラブ（講師 田中先生）
2日　作楽荘・美光ハイム合同防災訓練
3日　納涼盆踊り
6日　カラオケクラブ（講師 白川先生）
7日　盆供養
10日　書道クラブ（講師 岩田先生）
20日　カラオケクラブ（講師 白川先生）
　健康体操クラブ（講師 大須賀先生）
　茶道クラブ（講師 西口先生）
22日　映画会
23日　流しそうめん
27日　お達者倶楽部

倶楽荘日誌

令和元年7月

3日　茶処くらら
9日　運営推進会議
10日　パッチワーククラブ（Pちく）
17日　倶楽荘連絡会議
　習字教室（小嶋先生）
　Aユニット誕生日外出（スシロー）
18日　愛老協スキルアップ研修（小野 於 日本福祉大学名古屋キャンパス）
21日　Aユニット誕生日会
24日　Bユニット誕生日会
27日　土用の丑（うなぎ提供）
28日　津田まつり参加

令和元年8月

1日　愛老協リーダー研修（今泉・高倉 於 日本福祉大学名古屋キャンパス）
3日　作業荘盆踊り参加
9日　身体拘束廃止委員会内部研修（波田野 於 作楽荘）
13日　迎え火
14日　Aユニットイベントランチ（そうめん）
15日　送り火
17日　ユニットリーダー会議
21日　倶楽荘連絡会議
　習字教室（小嶋先生）
28日　Cユニット誕生日会

GHくら日誌

令和元年7月

2日　認知症介護実践者研修（3日・12日、上村 於 名古屋銀行協会大ホール）
3日　茶処くらら
6日　介護支援専門員更新研修（7日・14日・20日・28日、石井）
9日　運営推進会議
10日　パッチワーククラブ（Pちく）
12日　事故防止委員会内部研修（井本 於 作楽荘）
15日　A・B誕生日会
17日　倶楽荘連絡会議
　習字教室（小嶋先生）
18日　愛老協スキルアップ研修（井本 於 日本福祉大学名古屋キャンパス）
25日　愛老協スキルアップ研修（西村 於 日本福祉大学名古屋キャンパス）
28日　津田まつり参加
29日　音楽療法

令和元年8月

1日　愛老協リーダー研修（牧野・山本 於 日本福祉大学名古屋キャンパス）
3日　作楽荘盆踊り参加
13日　迎え火
15日　送り火
16日　A・B誕生日会
21日　倶楽荘連絡会議
　習字教室（小嶋先生）
27日　介護技術研修（湯浅 於 日本福祉大学日本福祉専門学校）
29日　ブロック会議（湯浅 於 あいトピア）

斯楽荘日誌

令和元年7月

12日　運営推進会議
22日　Bユニットミーティング
25日　連絡会議（於 作楽荘）

令和元年8月

1日　介護リーダー研修（鈴木貴子 於 日本福祉大学）
3日　盆踊り外出（於 作楽荘）
4日　夏祭り外出（於 玉川小学校）
5日　連絡会議
8日　流しそうめん
24日　納涼祭外出（於 BVH）
25日　豊川吹奏楽団演奏会
28日　木の花会幹事会（菅原 於 作楽荘）
29日　連絡会議（於 作楽荘）
30日　Aユニットミーティング

ベルヴューハイツ日誌

令和元年7月

5日　明照保育園慰問
　七夕会
9日　職種別会議（堀内主任 於 あいトピア）
11日　ケアマネ研修会（堀内主任 於 BVH）
17日　本部会議（斯楽荘）
18日　音楽療法（おたまじゃくしの会）
22日　温泉フェスタ（～27日）
23日　職種別会議（社会福祉士）（菅沼 於 豊橋市役所）
24日　音楽療法（ヘボの会）
25日　シニアの為の食とお口の講座（堀内主任・菅沼・山崎 於 吉田方校区市民館）
26日　生け花3F（講師 佐藤先生）
27日　手毬会・民謡舞踊（山吹里の会）
28日　誕生日会
30日　職種別会議（保健師）（山崎・羽田 於 あいトピア）

令和元年8月

6日　業務打ち合わせ会（堀内主任・菅沼 於 豊橋市役所）
8日　盆供養
9日　民生委員定例会（堀内主任・菅沼・山崎・羽田 於 ベルヴューハイツ）
12日　慈穏の会
13日　職種別会議（堀内主任 於 あいトピア）
15日　ケアマネ研修会（堀内主任 於 ベルヴューハイツ）
20日　クラフト作成（日本レクリエーション協会）
　職種別会議（保健師）（山崎・羽田 於 真寿苑）
23日　生け花3F（講師 佐藤先生）
24日　納涼祭（18時～）
25日　誕生日会
26日　温泉フェスタ（～31日）
27日　職種別会議（社会福祉士）（菅沼 於 豊橋市役所）
28日　音楽療法（ヘボの会）
29日　和太鼓慰問（豊丘高校）
　音楽療法（ヘボの会）

DSC吉かわ日誌

令和元年7月

2日　マジック慰問（なんちゃってマジシャン健ちゃん）
8日　七夕会
12日　流し素麺の日
15日　ものまねと折り紙慰問（山下先生）
16日　BVH連絡会議（滝川主任）
20日　慰問 金田ひよこ氏（アコーディオン演奏・安木節ほか）
　研修（於 作楽荘 滝川主任）
　流し素麺の日Part2
24日　慰問（マジックショーと歌謡ショー）
26日　習字教室（講師 佐藤先生）
27日　全体ミーティング

令和元年8月

7日　尺八・三味線慰問（竹豊会）
12日　盆踊り練習週間
19日　慰問 鼓流（和太鼓）
　慰問 南京玉すだれ慰問（ひよこオンステージほか）
　夏祭り（～24日）
20日　BVH連絡会議（滝川主任）
23日　習字教室（講師 佐藤先生）
24日　ミーティング
26日　季節の花週間（～31日）

麗楽荘日誌

令和元年7月

2日　第1回在宅サービス委員会（小島荘長 於 愛知県社会福祉会館）
6日　宝陵高等学校介護実習
7日　七夕会
9日　給食会議
10日　書道クラブ（加藤美代子先生）
13日　宝陵高等学校介護実習
16日　はぐるまの会
　寿司祭り
18日　生け花クラブ（加藤温瞳先生）
19日　連絡会議
　入所判定会議
22日　宝陵高等学校介護実習（～8月2日）
27日　土用の丑

令和元年8月

3日　矢部地区盆踊り

和光ハイム日誌

令和元年7月
1日　和の会
4日　体操教室（今泉先生）
5日　七夕会
　　流しそうめん会
7日　七夕会食
9日　お茶を楽しむ会
　　給食会議
16日　寿司祭り
18日　体操教室（今泉先生）
19日　生け花教室（加藤輝照先生）
　　連絡会議
22日　おやつ作り
24日　書道教室（加藤美代子先生）
　　浴衣で水打ち
　　健康チェック
25日　大正琴教室（西亀先生）
27日　土用の丑
29日　和光ハイム会議
6日　はぐるまの会
7日　書道クラブ（加藤美代子先生）
11日　盆供養
13日　給食会議
　　迎え火
　　新城市花火大会
14日　寿司祭り
15日　生け花クラブ（加藤温瞳先生）
　　送り火
16日　連絡会議
　　入所判定会議
19日　新城高等学校職業体験（～21日）
23日　新城東高等学校吹奏楽部演奏

GHうらら日誌

令和元年8月
1日　体操教室（今泉先生）
3日　矢部地区盆踊り
5日　和の会
11日　盆供養
13日　給食会議
　　迎え火
　　新城市花火大会
14日　寿司祭り
15日　体操教室（今泉先生）
　　送り火
16日　連絡会議
19日　おやつ作り
21日　書道教室（加藤美代子先生）
22日　大正琴教室（西亀先生）
23日　生け花教室（加藤輝照先生）
　　新城東高等学校吹奏楽部演奏
28日　お茶を楽しむ会
　　健康チェック

令和元年7月
2日　認知症実践者研修（～3日 谷口 於 名古屋銀行協会）
5日　流しそうめん
7日　七夕会
13日　雲母祭（於 GHきらら）
　　運営推進会議
17日　連絡会議
22日　宝陵高等学校介護実習（～26日）
28日　のんほいルロット

令和元年8月
3日　矢部地区盆踊り
11日　盆供養（於 麗楽荘）
13日　新城市花火大会
15日　大海の放下祭り
16日　連絡会議
17日　グループホーム花火大会
25日　矢部地区防災訓練
　　のんほいルロット
28日　はぐるまの会
　　認知症カフェ（於 シルバー人材センター）

奇楽荘日誌

令和元年7月
3日　大府センター認定ケアセミナー（桑山 於 ウインクあいち）
4日　パンドミー荘内販売
7日　七夕会
13日　運営推進会議
　　雲母祭（於 GHきらら）
19日　レインボーハウス荘内販売
23日　連絡会議
25日　ディズニー流接遇研修（入谷 於 日本福祉大学名古屋キャンパス）

令和元年8月
1日　パンドミー荘内販売
13日　迎え火
　　新城市花火大会
15日　送り火
　　一鍬田盆踊り
16日　レインボーハウス荘内販売
　　連絡会議
20日　流しそうめん会
22日　誕生日会

GHきらら日誌

令和元年7月
2日　訪問診療
　　接遇マナー研修（野末 於 アイリスあいち）
　　認知症実践者研修（～3日 横井佑 於 名古屋銀行協会）
4日　訪問診療
8日　家族介護者養成研修（今泉副主任・柿野 於 あいトピア）
10日　東三河ブロック研修会（横井宏 於 あいトピア）
13日　雲母祭
19日　防災訓練
23日　連絡会議
25日　ディズニー流接遇研修（伊藤 於 日本福祉大学名古屋キャンパス）
28日　のんほいルロット
　　俺ん家食堂

令和元年8月
3日　ふるさと会館夏祭り（於 富岡ふるさと会館）
6日　訪問診療
8日　訪問診療
13日　新城市花火大会
16日　連絡会議
　　認知症実践者研修（横井佑 於 名古屋銀行協会）
22日　誕生日外出（於 浜名湖ウォット）
25日　のんほいルロット
　　俺ん家食堂
　　海軍工廠平和記念公園資料館（於 豊川）
29日　連絡協議会ブロック会議（宮下 於 あいトピア）

行事案内

◆文化祭

○作楽荘（豊橋市王ケ崎町）
11月3日(日)午前11時～4時
☎0532(48)5111

○麗楽荘（新城市矢部）
11月3日(日)午前11時～4時
☎0536(22)4111

編集後記

9月ということばを耳にしても、秋という季節はまだまだどこか遠いところにいるような気がします。

今年の夏も日本列島は猛烈な暑さに見舞われ、35度以上の猛暑日が各地で続いたり、最高気温が40度を超える地域があったりと異常でした。

また、お盆のトリプル台風で局地的な豪雨が大きな被害をもたらしました。気象庁は数年前から、「これまでに経験したことのない大雨」と表現していますが毎年のように、「経験したことのないような…」が各地を襲うのは堪りません。

福祉業界も「これまでに経験したことのない人手不足」に直面していますが、「やまない雨はない」と信じ祈るばかりです。

（K・F）